

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市南吉成児童館
2	指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成26年4月1日から平成31年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 21,437人 (前年度比 117.4%)          平成28年度 18,257人          平成27年度 16,939人          平成26年度 19,164人</p> <p>《事業》          児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 ( )は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理者に支払った費用 33,661千円 ( 24,237千円)</li> <li>・ その他市が負担した費用 0千円 ( 0千円)</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用料収入 0千円 ( 0千円)</li> <li>・ その他収入 0千円 ( 0千円)</li> </ul>
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

### 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	児童館の設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、管理運営団体が作成した「オリエンテーションブック」を用いて職員への共通理解を図るとともに、館内掲示、ホームページ等で利用者にも周知している。また、地域特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	S
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な運営管理体制が構築されている。また、施設内外の日常点検及び定期点検、マニュアル等の整備、毎月の避難訓練の実施等、安全に留意した運営に取り組んでいる。また、管理運営団体作成の「保健・安全マニュアル」に加え、児童館独自の「事故・けがの防止マニュアル」も作成し、事故防止に努めている。	S
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な保守点検や清掃により、建物、設備、外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取組みが実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	S
IV サービスの質の向上	名札の着用、館内掲示による職員紹介、児童館だよりの発行やホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境作りに取り組んでいる。また、各種研修への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等を通して利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	S
V 施設固有の基準	長期休みには、3・4年生が朝の会の司会を担当したり遊びのプログラムを決めたりするなど、子どもの主体性を育てる活動に取り組んでいる。本館利用児童とサテライト利用児童と一緒に活動する多様な遊び等を行い、異学年交流にも力を入れている。また、児童クラブ親子交流会の実施は、親と子、保護者間の関係性を深めるとともに、保護者との信頼関係の構築にも結びついている。	S

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

### 四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>幼児クラブのねらい「保護者の自主的な活動を引き出し、子育ての輪を広げる支援を行う」に即し、保護者の選択肢が広がるよう、季節ごと地域の情報や多様な案を提供しました。保護者主体で行う年3回の活動は、ポスター作成・会の進行・小道具づくり・発表などをそれぞれ分担するなどし、共に創り上げる体験を通して保護者間の交流の深まりが見られました。子どもたち同士にも「一緒に帰ろう」などと声を掛け合うなど友だちを意識する成長を見ることができました。</p> <p>乳幼児親子が参加する『0ちゃんタイム』を月2回の活動に増やしたところ、乳児保護者に来館のリズムができあがり利用増加が見られました。また、不安な表情で参加していた保護者が児童館利用を重ねる中で他の保護者と交流が深まり、子育ての緊張がほぐれにこやかにしていく姿を見ることができました。</p> <p>小学校高学年から中・高生が中心になって運営する伝統行事子どもまつり『とり+かえっこ』では、実行委員となった子どもたちが地域の方々の支援をいただきながら主体的に活動し、今年度も「地域の伝統をつなげ、まつりを成功させよう」という目的を達成させていました。子どもたちは、反省会でも来年に向け建設的な意見を述べるなど自分たちの「街づくり」にしっかり取り組むことができました。中高生の利用は少しずつ増えてきていますが、さらに近隣の中学校・高校生の部活動情報を収集し、中学生・高校生の活躍の場を創りあげていきたいと考えています。</p> <p>「吉成・南吉成子育て支援ネットワーク会議」で結びついた諸団体と連携し、多様な企画行事を実践しました。「権現森自然研究会」との連携により、春のハイキング・冬のアニマルトラッキングなどを実施し、親子で身近な自然環境を学ぶ活動ができました。「南吉成社会福祉協議会」と共催している『世代をこえて・みんななかよし』を年2回実施し、地域の方々との世代間交流の場を創り、児童館の役割を地域の方々に理解していただきました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>幼児クラブの保護者が、自主的に「夏まつり」「クリスマス会」等の季節行事を企画・運営する活動は、保護者間の情報共有、交流の場となっており、保護者同士のつながりが更なる企画・運営に結び付いている。また、定期的なアンケートで把握した乳幼児親子のニーズを行事に反映させ、近隣の子育て関連施設等と連携しながら子育て支援の輪を広げている。</p> <p>子どもまつり「とり+かえっこ」は継続した行事として地域に定着している。子どもたちが、多世代の人たちと関わったり、仲間と協力したりする活動の機会となっており、主体性や社会性を育み、子どもも地域の一員であるという意識を育てている。</p> <p>地域の関係機関や団体との連携も深く、ボランティア等の協力を得ながら、ハイキングやコンサート、読み聞かせ、囲碁・将棋等、多様な行事を実施し、児童館が地域住民と子どもをつなぐ役割を果たしており、評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課） 子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室